



創立50周年記念 浜松交響楽団 第101回定期演奏会 古典の美か、モダンの衝撃か!?

哀愁漂うメロディと熱狂的な舞踏音楽が交錯し、エキゾチックな響きを持つ知られざる名曲。

完璧な調和と至高の美を宿す、古典交響曲の最高傑作。

そして、あまりの革新性で初演時の聴衆を震撼させた、モダン音楽の原点。

均整を極めた古典の美か、価値観を揺さぶり新たな時代を切り拓いたモダンの衝撃か。

音楽史に燦然と輝き、今なお人々を魅了し続ける記念碑的作品をお届けします。

Program

◆ ヴァインベルグ

モルダヴィアの主題による 狂詩曲 作品47-1

モルダヴィアの地（現在のモルドヴァで、ルーマニアの北東部の地域）にに基づくエキゾチックなメロディが、やがて生命力あふれる熱狂的なうねりに変貌していきます。過酷な時代を生き抜いたヴァインベルグが、あふれる情熱と鮮烈なオーケストレーションで紡いだ作品です。

◆ モーツァルト

交響曲第41番ハ長調 K.551 「ジュピター」

モーツァルト最後の交響曲です。スケールの大きさや、気品に満ち溢れ、輝かしく荘厳な曲想から、のちに「ジュピター（全能の神）」と称されるようになりました。最終楽章の究極の対位法と圧巻のフィナーレはまさに古典の美の極致。時代を超えて輝き続ける名曲です。

◆ ストラヴィンスキー

バレエ音楽「春の祭典」 (1967年版)

1913年のパリ初演時、その革新的な音楽と舞台は観客に大きな衝撃を与え、音楽史に残る大騒動を引き起こした伝説的作品です。始まりを告げる神秘的な響きから一転、原始的なリズムとエネルギーに満ちた強烈な不協和音、地鳴りのような重低音、そしてホールに轟く大音響…それまでの美意識を根底から打ち砕く衝撃は、新たな時代の扉を開きました。西洋音楽史に燦然と輝く傑作に浜響が挑みます！



©Taira Tairadate

指揮 坂入 健司郎 Kenshiro Sakairi

神奈川県川崎市出身。慶應義塾大学経済学部卒業。指揮は三河正典、山本七雄の各氏に、チェロを望月直哉氏に師事。また、指揮講習会等を通じてV.フェドセーエフ、飯守泰次郎、井上道義、井上喜惟、小林研一郎各氏の下で研鑽を積んだ。2008年には東京ユヴェントス・フィルハーモニーを結成。J.デームス、G.プーレ、館野泉など著名なソリストを迎え、一方、数多くの作品の日本初演・世界初演も行なっている。2016年、新鋭のプロフェッショナルオーケストラ・川崎室内管弦楽団の音楽監督に就任。2020年、日本コロムビアの新レーベルOpus Oneよりシエンベルグ「月に憑かれたピエロ」をリリース。他にも多くの録音を発表しており、レコード芸術誌の特選盤に選出されるなど高い評価を得ている。

これまでにモンテカルロ・フィル、読売日響、日本フィル、新日本フィル、シティ・フィル、神奈川フィル、仙台フィル、山形響、群馬響、名古屋フィル、セントラル愛知響、愛知室内、大阪フィル、大阪響、京都市響、兵庫芸術文化センター管、九州響などと共演。

2024年5月、N響と初共演。「内容のある初共演」と音楽の友誌上で評された。

浜松交響楽団 プロフィール

「楽器のまちから音楽のまちへ」との願いをこめて1976年（社）浜松青年会議所により設立。1978年に財団法人となり、2012年4月より公益財団法人へ移行。2000年度サントリー地域文化賞、静岡県知事賞、NHKあけぼの賞、2006年第59回中日文化賞を受賞。2026年に創立50周年を迎えた。現在団員数約140名。秋と春の年2回の定期演奏会、小学校や中学校でのオーケストラ教室など、地域に根ざした活動が続けている。



©高橋五郎スタジオ

今後の演奏会

第102回 定期演奏会 指揮：井崎 正浩 チェロ独奏：横坂 源

2027年4月11日（日）
14:00開演
アクトシティ浜松 大ホール

- ◆ドヴォルザーク 序曲「謝肉祭」作品92
- ◆ドヴォルザーク チェロ協奏曲 ロ短調 作品104
- ◆ブラームス 交響曲第4番 ホ短調 作品98

定期演奏会を毎回よいお席、お得な料金で♪
浜響後援会「アンダンテクラブ」友の会

- 定期演奏会の指定席が2割引になります
- ご希望の座席を毎回ご用意いたします
- チケットと機関誌をご自宅までお届けします

詳しくは浜響ウェブページまたは浜響事務局まで



浜響WEB